

森のおくりもの 11月



紅葉



震災のため実施が危ぶまれておりました開園20周年記念行事が本格的に始まります。その第一弾として「太白山自然観察の森開園20周年記念写真展」が11月10日から当センターにおいて開催されます。太白山周辺の懐かしい写真がたくさん展示されますのでぜひお立ち寄りのうえご覧下さい。（菊池）

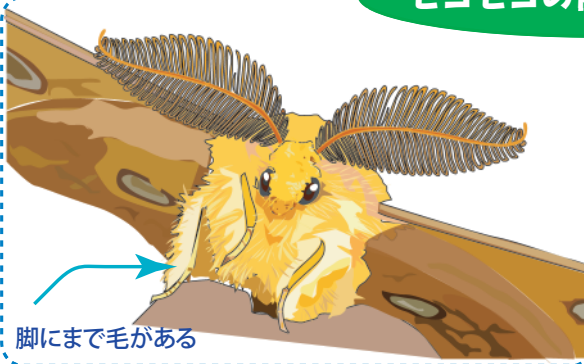
晩秋に羽化する 「ウスタビガ」



風が吹くごとにハラハラと葉が落ちて、少し見通しがよくなった観察の森では10月末にクスサンの羽化が見られました。そこで、今回は、晩秋になると羽化するもう1種類のヤママユの仲間、「ウスタビガ」を紹介します。

【文・イラスト:黒川】

モコモコの体がかわゆい



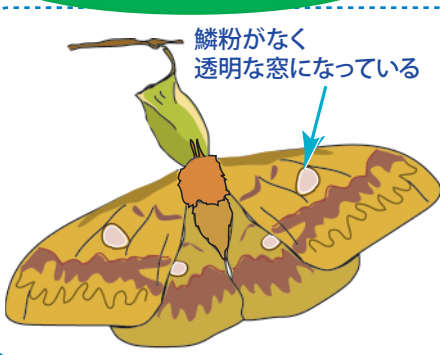
チャームポイントは、何とんでもこのぬいぐるみのような、大きな目とモコモコした顔と体でしょう。観察したり、写真を撮るときは、是非、顔の正面から見ることをお勧めします。雄の櫛髯状のアンテナは雌を探すため、大きく立派です。寒い時に羽化するからなのか、雌は羽化した繭の上に卵を産んでいることが多いように思えます。

春から初夏にかけて、幼虫の姿を見ることができます。幼虫は成長するにつれて、少しずつ形や模様が変わっていきます。終齢幼虫（蛹の前の幼虫）は薄緑色と濃い緑色のツートンカラーできれいです。見つけたら、触ってみましょう。チチチという鳴き声(?)が聞けるかもしれません。

幼虫のすがた



背中から見たところ



葉が落ちると目立つ薄緑色のきれいな繭は形がカマスに似ている事から「ヤマカマス」とも呼ばれます。名前の薄手火蛾（うすたびが）の手火（たび）は、「ちようちん」のことで木にぶら下がるこの繭の姿から名づけられたそうです。

「まゆ」のかたち

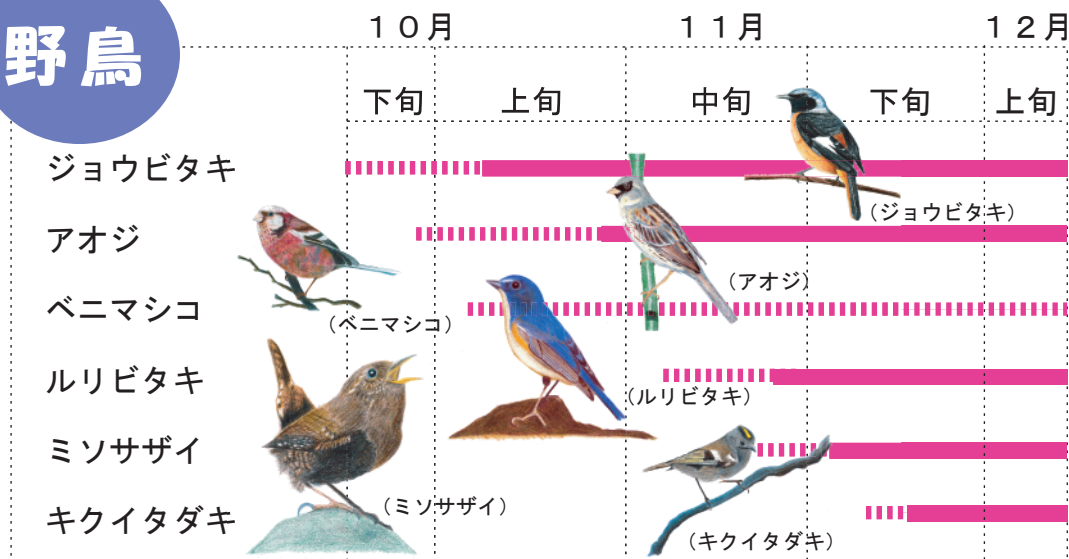


* 成虫の翅の一部が透けて見える状態を覆き古した「足袋」に見立てて「薄足袋蛾」とする説もある。
* カマスとは、ワラで編んだムシロを二つ折りにして袋状にし、隅や穀物を入れたもの。

11月の生物ごよみ

(過去のデータから予想)

野鳥



先月の10月18日に冬鳥のトップバッター『ジョウビタキ』の確認情報が入ってきました。昨年確認できたのは10月17日だったので、ほぼ同じといえます。野鳥は時計ももっていないのに正確ですね。

今年も12月からセンター裏で『バードテーブル』を開きますので皆さん見に来てくださいね。

木の実の实りがいつもよりよかった今年でしたが、昨年同様ドングリは不作のようです。いつもはたくさん落ちている『みはらしの道』を歩いてみてもほとんど見つけることができません。豊作を願っていただけに残念。キノコも不作の年でした。

【イラスト・文：齋】

カヤの実のアクの抜き方

昨年は見るができなかったカヤの実をたくさん拾うことができました。そのままではヤニくさく食べることができませんがアク抜きすることによって美味しくいただけます。サナダムシの駆除にも使われていたカヤの実。

今回はその方法を教えます！！

- ①落ちているカヤの実をむくと中にアーモンドのような種が入っています それをとりきれいに洗う
- ②水1ℓに小さじ1の重曹を入れてそれに10日ほどつける(色が変わったら3日に1度くらい水を変える。水は茶色になります)
- ③水から出したものを乾燥させる。(天日干しにする)
- ④乾いたものは中身をつぶさないようにベンチなどで殻を割る
- ⑤薄皮がついている状態でフライパンなどで弱火で乾煎りする
- ⑥薄皮をむいて出来上がり



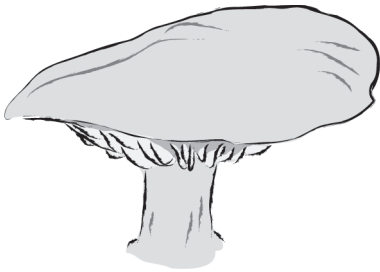
みんなで自然観察

イベント報告
きのご観察会



須川敏幸 氏

11月22日の観察会では、仙台キノコ同好会研修副部長の須川さんに講師をお願いしました。息子さんの元君も、助手として参加してくれました。残念ながら雨が降ってしまいましたが、キノコにとっては恵みの雨。これから、わんさか出てきてくれるでしょう。当日見つけたキノコは30種ほどでした。クリタケ、ムラサキシメジ、ハタケシメジ、ナラタケ、クリフウセンタケなどはとても美味しいキノコです。試食会ができなくて残念でしたが、各自同定技術を磨き、それぞれのフィールドでキノコ狩りをお楽しみ下さい。自然観察の森は、観察するのが目的の森です。ここでのキノコ狩りはご遠慮下さい。食菌があれば、もちろん毒キノコもありました。ニガクリタケは、クリタケと間違えて誤食するなど、中毒例もあるのでご注意下さい。美味しいツチスギタケもたくさんありましたが、毒キノコとして扱っている図鑑もあるので、こちらもご注意下さい。冬虫夏草も、カメムシタケ、ガヤドリナガミノツブタケ、ハナサナギタケ、クチキツトノミタケの4種が見つかりました。クチキツトノミタケは、我々レンジャーもまだ見つけたことが無かったのですが、元君が2つも見つける大活躍をしました。これからはもっと寒くなりますが、寒い季節に出てくるキノコもあるので、みなさんぜひ自然観察の森にお出で下さい。



ムラサキシメジ



ツチスギタケ



ナラタケ

【イラスト・文：林】

注：自然観察センターでは、キノコの同定や食毒に関する質問にはお答えしておりません。

冬もまた太白山自然観察の森で



いよいよ自然観察の森は、冬に向けた新たな装いへと変化しようとしております。初冬の森の楽しみは落ち葉を踏みしめ、ひんやりした空気を味わいながら歩くすがすがしさにあるのではないのでしょうか。ぜひお試しください。

さて、初冬の太白山自然観察の森ではいったい何が観察できるのでしょうか。このところ私は「森のおくりもの」にキノコの記事を連載してまいりました。しかし、11月に入ってさすがにキノコの記事は書けないだろうと思われる方も多いことと思います。ところが、その期待に反し、今月もまたキノコをとりあげてみたいと思います。

冬には養殖キノコ以外は見られないと思われがちですが、ここ太白山自然観察の森でも真冬の天然のキノコを見ることができます。その代表が、養殖キノコの中でもあまりにも一般的になっているエノキタケです。「あのエノキタケですか」と驚かれる方も多いと思います。そうです、あのエノキタケなのです。実は、皆様のご家庭の庭や近くの公園の広葉樹の切り株などにも結構発生することがあります。

しかし、養殖のものとは似てもにつかない様相をしているがために「エノキタケ」と気づかないことが多いようです。その大きな違いは色と大きさにあります。色は、養殖の方は白色であるのに対し、天然は茶色でクリタケのような色をしております。また、養殖のエノキタケのカサの大きさが5から10mm程度なのに対し、天然は20から80mmにもなります。

さらに、天然のエノキタケが発生する時期も、普通のキノコとは異なり真冬でもでて積雪の下から頭をだすことさえあり、「ユキノシタ」とよぶ地方もあるほどです。

その他、エノキタケ以外にも晩秋から初冬にかけて見られるのキノコがあります。代表的なものとしてキヌメリガサ、フユヤマタケ、ムラサキシメジ、シモフリヌメリガサなどが該当します。これらは当観察の森でも見ることができます。

これからの季節は、紅葉の終わりと共に、広葉樹の葉が落ち野鳥を容易に観察できるようになる時期でもあり、まだまだ自然観察の森は楽しめます。晩秋から初冬にかけての森を存分にお楽しみいただきたいと思います。

(菊池)

11月の催し

申 し込み⇒ 8日9時から電話で受付

11/26 (土) 『鉤取山ネイチャーウォーキング』 **申** 【定員】 20名
 10:00~15:00 自然観察をしながら、鉤取山国有林を歩きます。 【持ち物】 お弁当、雨具、動きやすい服装で

11/10 (土) 太白山自然観察の森 開園20周年記念写真展
12/10 (土) 『太白山いまむかし』
 9:00~16:30 開園20周年を記念し、20年の歴史や自然環境の変化がわかる「今」と「昔」の写真展です。

『ガイドウォーク』の日!
 (日)曜日は 11月のテーマは『森と野鳥たち』です
6日, 13日, 20日, 27日
 10:00~11:30、13:30~15:00
 * 申し込みの必要はありません。
 センター前にお集まりください。

12/10 (土) pm1:30 ~
20周年記念講演会
『太白山いまむかし』
 を開催します!
予告
休館日
 7日、14日、21日、28日、

♪森へおいでください♪

宮城交通バス
 仙台駅前バスプール7番 または 長町駅から
山田自由ヶ丘車庫 行きに乗り
 公営アパート前 で下車、徒歩15分でセンター

車
 国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。
 道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。徒歩5分でセンター



定期購読のお知らせ

住所・氏名・電話番号と、何月号から希望かを明記のうえ、80円切手12枚を同封して、自然観察センターまでお申し込みください。

2011年11月号(毎月1回5日発行)
 発行: (財) 仙台市公園緑地協会
 編集: 仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター
 〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森東36-63
 Tel: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133

* 仙台市からのお知らせ: 「キッズ百年の杜」のURLにガイドウォークの1年のようすが載っています。→ <http://www.kids-100forest.jp/>